

教科	自立活動	単元名	オリジナルのゆるキャラを作ろう
----	------	-----	-----------------

本時のねらい

- ・ 友だちや他者とのコミュニケーションにおける課題に向き合うことができる。
- ・ 自分が考えたゆるキャラの紹介文を作ることができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・ 自分の苦手意識や感情をゆるキャラとして視覚化することで、コミュニケーションにおける課題に意欲的に向き合う児童の姿につなげる。
- ・ 一人ひとりの発達段階に合わせたワークシート（言葉選び、言葉の並び替え、穴埋め、文章の型の提示などの配慮）を端末で配付することで、それぞれが試行錯誤や言葉と言葉をつなげることが容易にできる。また、文章を書く活動に進んで取り組めるようにする。

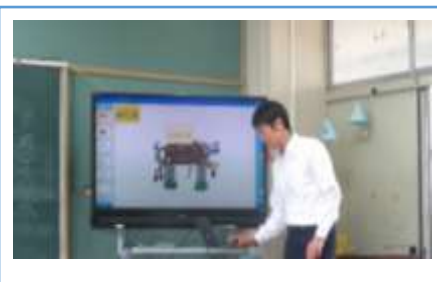
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ タブレット PC
- ・ SKYMENU Class 「発表ノート」
- ・ 大型モニター

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (15 分)	<ul style="list-style-type: none"> ○ コグトレ体操をする <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画を見本に体操を行う。 ○ コミュニケーション場面における課題解決のためのアイテムのふりかえりをする <ul style="list-style-type: none"> ・ カードを見て、どのコミュニケーション場面で使ったか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画を大型モニターに映し、参考にしながら安心して体操できるようにする。また、視覚的な支援により、活動に自信をもって参加できるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて「言葉を考えて、オリジナルのゆるキャラの紹介文を作ろう」</div>		
展開 (20 分)	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゆるキャラの紹介の仕方を聞く <ul style="list-style-type: none"> ・ 大型モニターを見ながら説明を聞く。 ○ ゆるキャラの紹介文を発表ノートに書く <ul style="list-style-type: none"> ・ <input type="text"/>の中に入る単語を考えて、紹介文を作る。 ○ 希望した児童がゆるキャラの紹介文を発表する <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の児童のお手本となるように発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【写真 1】 ・ 大型モニターに紹介の手順を映し、わかりやすく説明する。 【写真 2】 ・ ゆるキャラの特徴や絵を発表ノートに事前に用意し、紹介文を作りやすくする。 ・ 一人ひとりの課題に合わせた発表ノートを作成することで、児童が言葉を選んだり、考えたりしやすくする。 【写真 3】 ・ 発表児童の画面を大型モニターに投影して全員で共有し、自分の紹介文の参考にできるようにする。
まとめ (10 分)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習をふりかえる <ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介文を考えることができたかを確認する。 ・ 次時では全員が紹介文を発表することを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完成させた紹介文を見ながら学習をふりかえる。

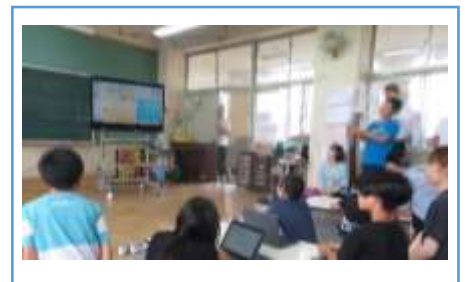
1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】ゆるキャラの紹介の仕方を説明している場面（実際に操作しながら）



【写真 2】発表ノートにゆるキャラの紹介文を書いている場面



【写真 3】児童の作った紹介文を大型モニターに投影し、紹介文を発表している場面

児童生徒の反応や変容

端末上で自分で作ったキャラクターの絵に満足している児童が多く、キャラクターにストーリーを生み出す活動にも意欲的に取り組んでいた。普段、教室で学習が十分にできていない児童や大人数が苦手な児童が、端末を自分で操作したり、友だちの作品を見たりしながら集中して参加することができた。また、自分のつくった紹介文を笑顔を見せながら教師に見せ、端末上で紹介する児童も多かった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・ 書くことが苦手な児童でも、端末上で手書き入力やフリック操作などを利用することで、作文したり感情を表現したりすることができた。
- ・ 画面を使って発表する機会があることで、主体的に紹介文を発表する児童もおり、他の児童もその発表を参考にすることができた。
- ・ 発表ノートの教材は、配付や回収が簡単で、提出の有無も確認しやすい。